

福島県飯館村で復興状況を視察しました

全国山村振興連盟事務局長 實重重実

8月4日・5日の2日間にわたり「北海道・東北6県山村振興ブロック会議」が福島県支部の主催で開催されました。今回は、第1日目には飯館村の復興状況、第2日目には福島第一原子力発電所の廃炉状況について視察させていただきました。

1日目に訪問した飯館村は、2011年の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故発生により、全村退避を余儀なくされた村でした。しかしその後除染が行われ、2017年3月末に長泥地区を除く避難指示区域が解除され、令和6年の住民は、1802世帯、4608人となっています。

視察させていただいたのは、まず「花の里ながどろ環境再生情報ひろば」でした。ここでは、除染した除去土壌の再生利用についての実証事業が環境省により行われています。除去土壌は東京ドーム約11杯分が中間貯蔵施設へ運び込まれていますが、再生利用することによって最終処分量を減らそうというものです。放射能濃度の低い除去土壌について、先般、総理官邸で花壇の土として利用するため運び込まれたところですが、他にも公共工事等において、盛土、覆土、埋め立て材などとして再生利用しようとしています。

視察した地区で環境省が実施していたのは、農地の盛り土をした上でその上を作土などで覆い、農作物を育てる実証でした。2020年度から、ダイコン、ミニトマトなどの野菜、トルコギキョウなどの花き、水田での水稻、大豆 飼料用トウモロコシといった多くの農産物が栽培され、いずれも放射性物質の基準値を大きく下回る結果が出ています。

次に視察させていただいた「飯館みらい発電所」は、「飯館バイオパートナーズ株式会社」が運営している木質バイオマス発電事業でした。ここでは、森林を再生するため、厳格な放射性物質対策のもとで、県の指針に従って搬出された木材をバイオマス燃料として利用して、発電しています。

飯館村は森林を再生し、あわせて未来志向型の農業体系を構築することを目的として、木質バイオマス発電施設の整備について検討を進め、2020年6月に事業者を公募。同年7月、事業会社として「飯館バイオ パートナーズ株式会社」が選定されました。出力は7500kWで、発電電力量は年間5300万kWhに上り、一般家庭約1万7000軒相当となっています。

私も農林水産省農村振興局長だった時期（2011～2013年）に震災復興を担当していましたので、飯館村には何度も訪問させていただいていましたが、今や多くの住民が帰還され、復興を遂げつつあることを感銘深く拝見させていただきました。

2日目の視察については、次号で掲載します。